

# KSTNET WEB版 2003年11月号

## 1.平成15年度熊本市市民健康フェスティバル報告

熊本市市民体育館にて、H15年度熊本市市民健康フェスティバルが開催されました。2日間の来客数◆は脳力チェック255人、聞こえの相談は100人でした。来場された方の中には毎年ここで能力チェックや聴力チェックをしているという来客者も多数見られました。脳力チェックではレーヴン・MEDE・仮名ひろいテストを受けていただき、その後説明を行ないました。聴力チェックでは、簡易遮音室にて聴力検査と結果説明を受けていただきました。

在宅ブースではコミュニケーションコーナーにてコミュニケーション機器と「失語症患者への接し方（1～3）」をパネル展示し紹介しました。今年は、コミュニケーション機器の展示にて、機器を手に取り実際に機器を操作される方も多く見られました。摂食・嚥下障害コーナーでは自助具展示、書籍・ビデオ紹介とビデオ放映を行い、『食べることの障害』の存在を知ってもらう為のよいきっかけになったのではと思います。

その他の相談として、STの仕事、養成校について（8件）、補聴器について（1件）、吃音痴呆の母親の介護について（1件）、甲状腺術後の反回神経麻痺について（1件）がありました。

今年も他ブースに劣らない程の来客数であり、若年者層から高齢者層まで幅広い参加がありました。例年の高齢化社会の中で健康について『脳健康』や『老人介護』に対して一般的な関心が高まっているように感じられます。また、家族や身内に等の近隣に何らかの障害を持つ人が居るといふ人が増えていることも、今回の来客数に反映しているのではないのでしょうか。

今後も様々な形で沢山の皆さまに言語障害や言語聴覚士を知って頂き、常に技術を高め提供できる様、日々努力していかねばならないと思います。そして、この様なフェスティバルへ参加する事が、一般の方への関心を高めるための第一歩だと、実感しています。

スタッフ参加された先生方には休日中にもかかわらず御協力頂き有り難うございました。

文責 江南病院 下田 祐輝

## 2. 「新人指導・一人職場に関する調査」結果報告

本調査は、近年のST増加に伴って浮上してきた資質の問題を把握し、県のST会でサポート体制を築くことを目的に開始いたしました。例えば、経験年数が浅いにも関わらず新人指導を担っていたり、新人指導を十分に受けられないまま業務に携わっていたり、あるいは一人職場で誰にも相談できないまま孤軍奮闘している・・・などの問題はSTの資質向上の妨げになっていることと思います。以下、調査の結果をご報告いたします。

### (1) 新人指導をする側から

新人指導経験があるSTは全体の38%であった。その中で、新人指導時の経験年数は5～9年が44%と最多であったが、経験年数1～4年目は21%であり、経験年数が少ないにも関わらず新人指導を行っている現状を捉えることができた。また、同時に指導した新人数は1名

が82%と大半を占めていたが、3名も指導しているSTは9%であった。

1. 新人指導をして良かった点：上位から「知識・技術の再確認（25件）」「信頼・協力関係の構築（5件）」「技術・認識の共有（2件）」「新人の成長の促進（1件）」であった。
  2. 新人指導の難しかった点：上位から「時間の不足（13件）」「指導の内容・範囲（9件）」「指導者の知識・技術不足（6件）」「価値観の相違（5件）」であった。
  3. 新人指導の内容：「患者や家族への対応」「他部門との連携」「報告書の書き方」が最多であった。
  4. サポートの必要性：回答者の74%が「必要」と答えていた。希望するサポートの内容は上位から「研修会（25件）」「電話/FAXでの個別相談（16件）」「職場指導（4件）」であった。
2. 新人指導を受ける側から
- 新人指導を受けた経験があるSTは全体の61%であった。
1. 新人指導を受けて良かった点：上位から「知識・技術の習得（29件）」「業務の流れの把握（23件）」「心理的安心感（7件）」「社会人としての教育（3件）」であった。
  2. 新人指導の不十分だった点：上位から「具体的手技指導の不十分（10件）」「なし（7件）」「被指導者の能力の不十分（6件）」「システムの不備（5件）」「時間不足（4件）」「一般業務指導の不十分（1件）」であった。
  3. 指導の内容：「カルテの書き方」が最多であった。
  4. サポートの必要性：回答者の83%が「必要」と答えていた。希望するサポートの内容は上位から「研修会（48件）」「電話/FAXでの個別相談（26件）」「職場指導（11件）」であった。
3. 一人職場の経験から
- 一人職場を経験したSTは全体の43%であった。
1. 一人職場の良い点：上位から「マイペース可能（21件）」「他職種との連携強化（7件）」「わからない・ない（4件）」「全体の把握（2件）」「責任感の強化（2件）」であった。
  2. 一人職場の欠点：上位から「相談相手の不在（19件）」「自分の方法への不安（9件）」「責任過重（9件）」「他職種の無理解（6件）」であった。
  3. 一人職場の自己研修の内容：上位から「研修会に参加（31件）」「先輩STの指導（27件）」「他職場の見学（16件）」「バイザーの指導（10件）」「専門STの指導（10件）」「卒業校の指導（10件）」「継続した研修（9件）」であった。
  4. サポートの必要性：回答者の85%が「必要」と答えていた。希望するサポートの内容は上位から「電話/FAXでの個別相談（27件）」「研修会（23件）」「職場指導（8件）」であった。
4. 資質向上のための工夫
- 上位から「研修会・講習会・学会への参加（29件）」「文献検索（18件）」「ST同士の情報

交換（11件）」「他職種との交流（9件）」「症例検討（8件）」「先輩STからの指導（5件）」「研究発表（3件）」「実習生の指導（2件）」であった。

以上の結果から、新人指導をする側、新人および一人職場のSTの多くがサポートを希望していることがわかりました。現在、委員会を設けてブロック内及び県士会全体で相談できる体制を検討中です。現場での意見を12月末までに意見をお寄せ下さると有難いです。そして今年度中には体制作りを会員皆様にお伝えする予定です。相談体制が整う前であっても、相談ごとがある場合はいつでもお気軽に理事にお尋ね下さい。

尚、回収率は81%（95/117名）でした。調査にご協力いただいた県士会員の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後も、STが資質向上を目指していけるように、皆様のご意見をお寄せください。

会

資質向上委員  
山鹿温泉リハビリテー  
ション病院  
横山典子  
電話0968-43-4151  
FAX 0968-43-4153

### 3. 「熊本県失語症の集い」参加報告

私が熊本託麻台病院で長期実習をさせて頂いた時期に、「熊本県失語症の集い」が開催され、言語聴覚士の遠藤尚志先生の特別講演である『失語症ライブ』を見学させて頂きました。『失語症ライブ』の内容として、遠藤先生が司会・進行されながら、ステージ上で失語症の方とボランティアの方それぞれ1ペアを作り、お互いに挨拶・自己紹介などコミュニケーションを図るというものでした。その後、参加者全員で手遊び歌にあわせ、体を動かすを行いました。会場には、終始参加者の笑い声が絶えず、時間がたつのも忘れてしまうほど楽しく過ごしました。

その後行われた勉強会では、この『失語症ライブ』は、アソビリテーションが基本となっており、仲間意識を育て、お互いを良きものとみなし、調和するのが目的であるということ学びました。勉強会で遠藤先生が言われた中に「ボランティアの方には、必ず参加して頂く。その理由として、ボランティアの方は失語症に❖についての知識がない方もおり、一生懸命失語症の方とコミュニケーションを図ろうとする姿が、失語症者のコミュニケーション意欲をかきたてるため、アソビリテーションの中でボランティアの方は、大きな役割を持つ。」ということばが印象に残りました。私たち実習生は、学校または臨床実習で失語症についての知識を学んでいるため、観察から症状をよみとり、この程度まで出来るという推測から枠をつくってしまうことがあるということを感じさせられました。

今回、「熊本県失語症の集い」に参加させて頂き、STを目指すものとして、失語症の方とコミュニケーションを図る際に、観察から症状をよみとり評価していくことに加え、失語症の方とコミュニケーションを図ろうという懸命な気持ちを常に持ち、障害をみるだけでなく、そ

の失語症の方自身をみることを忘れない大切さを改めて学ぶことができました。

これらの貴重な経験を生かし、様々な観点・大きな視野を持つことを心がけ、臨床に望みたいと思います。